

No.	対 談	論 文	その他
第一号	京都の美術文化を思う 梅原 猛 三浦景生	京都・美術の近代化 「浅井忠と京都」 上平 貢 竹内栖鳳の作風展開 原田平作 富本憲吉の近代 木下長広 深田康算の若き日 郡 定也	
第二号	華岳と波光 藤岡新三 秦 恒平	中井宗太郎先生 田中日佐夫	第一回京都美術文化賞
第三号	美工と絵専の思い出 上村松篁 梅原 猛	美工と絵専は京都に何を教えたか 美術工芸学校と京都画壇 廣田 孝 京都市立絵画専門学校と京都画壇 平野重光	京都市立美術工芸学校 京都市立絵画専門学校 略年表
第四号	当世京都画商気質 星野桂三 秦 恒平	華岳「日高河」雑感 加藤一雄 父、加藤一雄 加藤類子	第二回京都美術文化賞
第五号	新しい絵画世界を求めて 梅原 猛 加山又造	絵画のご一新 いわゆる「日本画」考 榊原吉郎 開化期京都洋画の思想 木下長宏	
第六号	京の、遊び心 徳力富吉郎 秦 恒平	小牧源太郎の芸術 中村義一	第三回京都美術文化賞
第七号	自然の心を描く 梅原 猛 下保 昭	維新前後の絵師たち 川口直宜	
第八号	美と美術館との出会い 秦 恒平 梶川芳友	京派への胎動期 榊原吉郎	第四回京都美術文化賞
第九号	心理空間を描く 梅原 猛 三尾公三	京の展覧会史 島田康寛	
第十号	気稟の清質最も尊ぶべし 中野皖司 秦 恒平	京の展覧会史 ―日本画を中心に(二)― 島田康寛	第五回京都美術文化賞
第十一号	夢を形に 梅原 猛 藤平 伸	円山・四条派における「写生画」の意味について 山川 武	
第十二号	京都感覚 小川後楽 秦 恒平	千家と職方 筒井絃一	第六回京都美術文化賞
第十三号	心の世界を描く 梅原 猛 中野弘彦	京の展覧会史 島田康寛	第七回京都美術文化賞
第十四号	京都の優雅文化 白井史朗 秦 恒平	祇園井特と京都画壇 田島達也	
第十五号	時代が芸術をつくる 作家と見る側との コミュニケーション 梅原 猛 山本容子	小野竹喬 小杉放菴 「奥の細道」に思うこと 草薙奈津子	第八回京都美術文化賞
第十六号	美術ジャーナリズムの機微 杉田博明 秦 恒平	美術記者神崎憲一のこと 加藤類子	
第十七号	絵を描く心 梅原 猛 麻田 浩	尊像はどのように造られるべきか —『日本霊異記』にみる造像譚— 岸 文和	第九回京都美術文化賞
第十八号	アートバイザーの前途 秦 恒平 村田博一	「通いの美学」ということ 井尻益郎	
第十九号	芸術を楽しむ 梅原 猛 木田安彦	現代陶芸の光と影 金子賢治	第十回京都美術文化賞
第二十号	平安京への視野 角田文衛 秦 恒平	甲斐庄楠音と土田麦僊 —二つの展覧会で考えたこと— 木下長宏	

第二十一号	自由に自分の世界を追求する 梅原 猛 西野陽一	京都における建築論 中村貴志	第十一回京都美術文化賞
第二十二号	嵯峨の風光 藤原敏行 秦 恒平	逝った画家たちへの恋文抄 塩川京子	
第二十三号	様々な世界をとおして 梅原 猛 樂吉左衛門	一村上華岳の旅— 至高からの眺望 梶川芳友	第十二回京都美術文化賞
第二十四号	技と精神の伝承 江里康慧 江里佐代子 秦 恒平	『京の近代建築』撮影余話 石場昭雄	
第二十五号	伝統から新しい創造へ 梅原 猛 八木 明	粉本私論 神原吉郎	第十三回京都美術文化賞
第二十六号	匠の美味—仕出しと京都— 川村岩松 秦 恒平	岡本神草「拳の舞妓」をめぐって 星野桂三	
第二十七号	清水家の伝統はものづくりの 自由さ 梅原 猛 八代目清水六兵衛	一九三五年(昭和十年)の京都画壇 平野重光	第十四回京都美術文化賞
第二十八号	日本画の問題と展望 神原吉郎 大須賀潔 秦 恒平	日本画近代化理念の再検討 —西と東の動向をめぐって— 大須賀潔	
第二十九号	布を染める人生 玉村 咏 秦 恒平	美術工芸専門教育の高等学校 —近代史に先駆けた一実例— 江口 滉	第十五回京都美術文化賞
第三十号	画題との出会い 梅原 猛 川村悦子	お静かに 日本人の美意識 秦 恒平	
第三十一号	路傍の京都を撮る 甲斐扶佐義 秦 恒平	表具・落款・箱書・印章について(上) 今井 淳	第十六回京都美術文化賞
第三十二号	美術と仏教 梅原 猛 齋藤真成	表具・落款・箱書・印章について(下) 今井 淳	
第三十三号	京の町家の瓦鐘爐 服部正実 秦 恒平	京暦美学事始(上) 神林恒道	第十七回京都美術文化賞
第三十四号	仏師の家系に導かれて 梅原 猛 野崎一良	京暦美学事始(下) 神林恒道	第十七回京都美術文化賞 受賞記念展
第三十五号	京薩摩はどうなる 奥谷智彦 秦 恒平	伝統の地政学 —世紀転換期における京都性の構築 佐藤守弘	第十八回京都美術文化賞
第三十六号	「新手」という創造性を求めて 梅原 猛 吉原英雄	日本画の表現 —描かれなかった主題— 大須賀潔	第十八回京都美術文化賞 受賞記念展
第三十七号	遊びの美と美術 三好閏三 秦 恒平	「古糊」について —材料科学から見た日本画修復— 早川典子	第十九回京都美術文化賞
第三十八号	〈土〉とは何であるか 梅原 猛 秋山 陽	中近世絵画史における扇絵 —扇にあらわれた美意識— 並木誠士	第十九回京都美術文化賞 受賞記念展
第三十九号	美術品目録とは何か 田中周二 秦 恒平	京都「画壇」の登場 吉中充代	第二十回京都美術文化賞
第四十号	思い出に残る作家たち 梅原 猛 内山武夫	試論 竹内栖鳳と一九世紀英国絵画 廣田 孝	第二十一回京都美術文化賞

第四十一号	特別対談 描くよこごび 梅原 猛 石本 正	近代日本画関連資料紹介 都路華香「子孫に遺す巻物」をめぐって 今井 淳	第二十二回京都美術文化賞
第四十二号	受け継がれる美意識 —細見美術館と京都— 細見良行 榊原吉郎	神坂雪佳と図案集 比嘉明子	第二十三回京都美術文化賞
第四十三号	写真芸術の新しい可能性 梅原 猛 井上隆雄	「平安画家評判記」について 田島達也	第二十四回京都美術文化賞
第四十四号	京表具の伝統と未来 榊原吉郎 村山秀紀	世界に発信する京の染め 福本繁樹	第二十五回京都美術文化賞
第四十五号	風の芸術家 梅原 猛 新宮 晋	「高台寺蒔絵」とは 田川真千子	第二十六回京都美術文化賞
第四十六号	これからの琳派 榊原吉郎 河野元昭	画家、豊嶋停雲について 松尾敦子	第二十七回京都美術文化賞
第四十七号	能-受け継がれる心 梅原 猛 梅若玄祥	堂本印象における絵画と工芸の関連性 山田由希代	第二十八回京都美術文化賞
第四十八号	京都 伝統工芸のこれから 榊原吉郎 若林卯兵衛	土佐家の巖島図 松尾芳樹	第二十九回京都美術文化賞
第四十九号	京都の芸術文化とともに歩む 「中信美術奨励基金」 梅原 猛 村井康彦	市井の人・入江波光 —親交を示す資料を中心に— 大西基子	第三十回京都美術文化賞
第五十号	京都市学校歴史博物館開館二十周年記念対談 「京都の美術を育んだもの」 上村淳之 榊原吉郎	京都高等工芸学校における初期教材— 明治後期における視覚資料について 和田積希	第三十一回「京都美術文化賞」
第五十一号	新選考委員就任記念座談会 「京都画壇、京都の美術」 榊原吉郎 篠原資明 柳原正樹 冷泉為人	久保田米僊 《大楠公・義貞公誠忠之図》について —明治期京都における歴史主題の絵画— 森光彦	第三十二回「京都美術文化賞」
第五十二号	竹内栖鳳の画業と後継者たち 榊原吉郎 太田垣實	表具 師の領分 —住友家における井口郵僊の仕事と交流 実方葉子	第三十三回「京都美術文化賞」
第五十三号	内と外 日本美術と西洋美術 榊原吉郎 潮江宏三	近代京都陶芸界における八木一艸 大長智広	第三十四回「京都美術文化賞」
第五十四号	京都画壇 「京都市的」なるものの深淵 榊原吉郎 田島達也	太田喜二郎と京都洋画家連盟 植田彩芳子	第三十五回「京都美術文化賞」
第五十五号	京都市立芸術大学の駅前移転を記念して —今熊野・沓掛の思い出から新キャンパスへの期待へ— 潮江宏三 山本容子	沼田一雅と船津英治 —京都の陶彫の創始者 後藤結美子	第三十六回「京都美術文化賞」
第五十六号	陶芸の現在 陶芸の未来 潮江宏三 秋山陽	「前衛絵画」と京都と戦争—「集団制作」という実験 清水智世	第三十七回「京都美術文化賞」